



わたしの希望

- これからの医療について -

医療法人社団鶴友会



最期の時まで「ご自分らしく生きるには」 と考えたことはありますか？

私たち鶴友会は、皆様が最期まで
「ご自分らしく生きていくため」のお手伝いを致します。
その方法の一つとして、「事前指定書」をご用意しています。



事前指定書とは？

病状悪化や認知症などによる判断能力の低下により、ご自分の意思が伝えられなくなる時に備え、ご自分のその時に受けたい医療、受けたくない医療をあらかじめ書いておくものです。また、ご自分の代わりに医療について決定してもらう代理人を記しておくものでもあります。

- あなたが判断することや意思を伝えることができなくなった時に初めて有効になります。
- 医療者や信頼できる方と話し合いながら書くことであなたの希望をより反映させることができます。
- 考えや希望が変わった時には何度でも書き直すことができるものです。
- 法的な拘束力はありませんが、あなたの希望を尊重するための重要な参考となります。

設置・保管について

記入後は医療機関に提示できるよう、診察券や保険証と一緒に保管されてください。
また、かかりつけ医やご家族などにも事前指定書の存在をお伝えください。



語句の説明

終末期（人生の最終段階）

終末期とは「生命維持処置を行わなければ、比較的短期間で死に至るであろう、不治で回復不能の状態」のことです。
つまり、ご自身の心臓や肺など重要な役割を担う臓器の働きが停止や低下し、処置を行わなければお命の最期を迎えるであろう状態です。
一般的には次のような処置が行われます。



▶心臓の働きや呼吸が停止または低下した場合

救急車で急性期病院へ搬送

救急車を呼ぶことは、「命を助けてほしい」というお願いをすることになります。
その結果、望まない医療処置が行われたり、自宅で最期を迎えたいと思っても、病院で最期を迎える可能性が高くなります。
※判断に迷う時はためらわずに救急車を呼んで下さい。

胸骨圧迫（心臓マッサージ）

心臓の停止や心臓の働きが非常に低下した場合、体の血流を保つために胸部を繰り返し圧迫する処置です。一般的に不整脈など急に起こった心臓の不調に対して行われる処置であり、徐々に状態が悪化するような終末期では十分な効果が得られない場合が多いです。胸部を強く圧迫するため、骨折や皮膚が傷つく場合があります。

電気ショック（カウターショック）

電気を流して、不整脈を正常な脈に回復させる処置です。心臓を挟むようにして電極を皮膚に張り付け、短時間に大きな電流を流します。電極を貼った部位に火傷をする場合があります。緊急の場合、一般の市民でも使用できる「AED」という機器もあります。



気管挿管と人工呼吸器の装着

気管挿管

呼吸が止まった場合や気道（空気の通り道）が閉塞した場合に、鼻や口からチューブを挿入し、空気の通り道を確保する処置です。チューブによる違和感が強く、意識のある方ではお薬を使用して眠っていただく必要があります。また、チューブが入った状態では声帯を使えないため、声が出ず、会話や十分な意思の疎通はできません。長期間チューブが挿入されていた場合などでは、チューブを抜いた後でも声帯がうまく動かず、声を出す際や飲み込む際に支障をきたすことがあります。

人工呼吸器

呼吸の停止や、自力で呼吸することが困難な場合に気管挿管を行い、呼吸を手助けする機器（人工呼吸器）を装着します。意識がある場合では息苦しさなどの苦痛を伴うため、ほとんどの場合、お薬を使用して眠っていただく必要があります。

自力で呼吸する力が戻り、人工呼吸器を外すことができる場合もありますが、一旦装着すると自力で呼吸する力が戻らなければ基本的には外すことができません。

人工呼吸が長期化した場合の気管切開

気管切開

1～2週間を超えて人工呼吸器が必要な場合は、のどを切って気管に穴を作り、そこに管を入れて人工呼吸器につなぎます。処置時の身体への負担や、慣れるまでは苦痛を伴う場合があります。

▶ 口から十分な栄養がとれなくなった場合

胃ろうによる栄養補給

お腹を少し切開して、直接胃にチューブを挿入した状態を胃ろうといいます。そのチューブから胃に栄養剤を入れて栄養を補給する方法です。

胃管による栄養補給

鼻から胃にチューブを挿入し、胃に栄養剤を入れて栄養を補給する方法です。チューブは定期的な交換が必要になります。チューブを挿入の際に吐き気や苦しさを伴うことがあります。また、挿入後もチューブがのどを通っているため、のどの痛みや違和感を感じる場合があります。

点滴による水分・栄養の補給（普通の点滴・太い血管からの点滴）

腕などから行う一般的な点滴では、あまり栄養をたくさん入れることはできません。十分な栄養補給のためには、大きな血管（鎖骨、首、足の付け根から入れています）からカテーテルという管を入れる必要があります。栄養価の高い点滴は基本的に24時間かけて投与します。

血管の中にカテーテルを入れておくことで、菌が血管から直接体内に侵入し深刻な感染症を起こす場合があります。点滴で栄養を補給すると、胃や腸などは働く機会がなくなるため、機能が低下します。

また、点滴での栄養補給と胃ろうや胃管から栄養補給の栄養補給では、胃ろうや胃管からがより食事に近い栄養素をとることができます。

▶尿が出なくなった場合

尿には毒素（老廃物）や余分な水分を体の外に出すという役割があります。腎臓の働きが悪くなると、体にたまった毒素や水分を尿として出せなくなります。

人工透析（一般的な人工透析・長期間の維持透析）

人工透析は機器を使って毒素を取り除いたり、余分な水分を除去する治療です。腎臓の働きが一時的に低下した際に行う透析と、腎臓の働きが慢性的に低下して透析を継続する維持透析があります。

透析を長期間行うためには、血管の手術（シャント造設術）や、大きな血管（首や足の付け根）からカテーテルという管を入れる処置が必要です。透析に使われる針は通常の注射針の2倍以上の太さがあり、その太い針を毎回2本刺します。刺す時の痛みを和らげる方法としてテープやクリームタイプの麻酔薬を使用しますが、針を刺すため多少の痛みを伴います。（カテーテルから透析を行う場合には毎回の痛みはありません）

主に維持透析は週に3回、1回あたり4～5時間をかけて行います。透析中はベッドで過ごします。ベッドごとにTVが設置されており、快適に過ごしていただけるように環境を整えています。しかし、長い時間拘束されるため苦痛に感じる場合があります。

語句の説明が不十分なときや、分かりにくいときには、
医師や看護師、介護の担当者にいつでもお尋ねください。



医療法人社団鶴友会

〒862-0925 熊本市東区保田窪本町10-112

- 鶴田病院
- 介護老人保健施設メデイエイト鶴翔苑
- 在宅総合支援センター

お問い合わせ

地域連携・相談支援センター

 096-287-6755

 renkei-hp@kakuyuukai.or.jp

 <https://kakuyuukai.or.jp/tsuruta/>